

平成26年度国立情報学研究所公募型共同研究募集要項

1. 趣旨

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所（以下「本研究所」という。）は、大学共同利用機関として、わが国の情報学分野での「未来価値創成（学術創成）」を目指し、国内外の大学及び研究機関の研究者との共同研究を推進しています。

近年、情報学には、人と社会に今までにない実価値を生み出す新しい理論、方法論、応用展開（未来価値）が求められています。そのような研究のさらなる推進と他の学問分野との連携による研究の開拓を進めるため、本研究所内外の研究者から共同研究を募集します。

2. 募集する共同研究の種類・テーマ

本研究所が募集する共同研究の種類は以下の3種類です。

いずれの共同研究の場合も、本研究所の教員を共同研究者として含むこととし、内1名を連絡担当教員として指定して下さい。なお、本研究所の教員が申請者の場合は省略できることとします。

ただし、平成26年度公募から、本研究所の教員が申請者になれるのは、下記公募型によらず全体で2件を上限といたします（連絡担当教員になることに上限はありません）。

(1) 戦略研究公募型（年間200万円以下）

情報学の動向を踏まえて研究所が戦略的に設定した研究課題を選択の上、具体的な研究テーマを設定して下さい。研究課題については、「戦略研究課題一覧（別紙1）」をご覧ください。なお、研究事項の設定はありませんので、自由に研究テーマを設定して下さい。また、共同研究者として希望する教員がおりましたら、申請書に明記下さい。

(2) 一般研究公募型（年間100万円以下）

(1)に該当しない研究テーマについて、具体的な研究テーマを設定して下さい。

研究事項については、「一般研究事項一覧」（別紙2）をご覧ください。なお、別紙2の研究事項に当てはまらない場合でも、独立の研究テーマとして応募することができます。

(3) 研究企画会合公募型（年間80万円以下）

本研究所の教員との共同研究を行うにあたって、

- マッチング交流会の実施
- ブレインストーミング等の対話型議論による課題の深化
- 実習形式による技術的課題の深化
- 国立情報学研究所公募型共同研究以外の外部資金獲得に向けた検討、打合せ等の実施を目的とします。

会合は原則として、国立情報学研究所 軽井沢国際高等セミナーハウス（長野県軽井沢町）にて実施することとします。

申請はグループ単位でも個人単位でも可能とし、幅広い検討を行う観点から、原則同一研究事項についての申請者は合同で採択し（多くても10～15名）、会合を実施し

ます。

研究事項については、「研究企画会合公募型研究事項一覧」（別紙3）をご覧ください。
なお、別紙3の研究事項に当てはまらない場合でも、独立の研究テーマとして応募することができます。

3. 応募資格（下記※要確認のこと）

- ① 国内の民間企業等に所属する研究者。
- ② 国内の大学・短期大学・高等専門学校及び大学共同利用機関等に所属する研究者並びにこれらに準ずる研究者。

※「研究者」には、企業・大学等の**職員、大学院生も含まれます**。ただし、大学院生（社会人学生は除く）は申請者にはなれませんので、共同研究者として参画して下さい。
また、海外機関に所属する日本人研究者は申請できません。

4. 研究期間

平成26年4月1日から平成27年3月31日

5. 申請方法

「平成26年度国立情報学研究所共同研究企画申請書」（様式1）を、別添記入要領を参照の上作成し、所属長（又は部局長。以下同じ。）の承認を得て提出して下さい。

なお、申請書等の作成にあたっては、研究事項が提示されているものについては、事前に本研究所の教員と研究内容、方法等に関して十分に打ち合わせをして下さい。（担当教員が不明な方は、企画課社会連携推進室連携支援チーム（TEL：03-4212-2170、2107 e-mail：kyoudou@nii.ac.jp）にご相談下さい。）

6. 平成25年度からの継続課題

平成25年度に採択された研究テーマについて引き続き申請する場合は、申請時までの研究成果も参考にして審査を行うこととしています。ついては、平成25年度の研究成果報告書（様式2）を作成の上、申請書と併せ期限までにご提出下さい。優れた研究成果をあげている研究テーマについては、優遇措置を取りますが、研究成果が不十分と思われる研究テーマについては、研究計画見直しの要請や平成26年度の継続を不採択にする場合もあります。

7. 申請書等の提出方法

申請書等は、押印済みの原本（カラー・両面印刷可）各1部を郵送のうえ、下記アドレス宛に電子データ（Wordファイル）もお送り下さい。

e-mail: kyoudou@nii.ac.jp

8. 申請書等の提出期限

平成26年1月7日（火）（電子データ必着。郵送は消印有効。ただしご所属長様の押印手続が間に合わない場合は、暫定的にその旨をメール本文に記載の上電子データを送

付頂き、押印手続後ご郵送下さい。)

9. 申請書等の送付先

〒101-8430

東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所

総務部企画課 社会連携推進室 連携支援チーム

※送付する際は、封筒の表に『共同研究応募書類在中』と朱書きして下さい。

10. 選考及び選考結果の通知

受け付けた申請書の中から運営会議の審議を経て所長が決定します。選考に当たって、ヒアリングを実施する場合があります。ヒアリングに係る旅費は支給されません。選考の決定は平成26年3月中に行い、選考結果を申請者及び申請者の所属長あてに通知します。なお、選考の結果、受入されなかった申請者の申請書等は返還しませんのでご了承下さい。

11. 採択予定者（件）数

予算を勘案し決定します。

12. 所要経費

予算の範囲内で、研究所が備品費、消耗品費、旅費、謝金を負担します。

※研究補助者等、雇用経費としては使用できません。

※複数の共同研究経費や、他の外部資金を合算しての使用はできません。

研究経費の管理は本研究所の連絡担当教員が行います。

13. 研究成果の取扱

共同研究の実施に伴い生じた知的財産権については、原則として共有とし、貢献度に応じて持分を決めます。詳細は、特許等の出願（外国に対する出願を含む）に先立って共同出願契約にて取決めを行います。

14. 研究成果報告

当該年度の共同研究終了後（改めてご連絡しますが翌年度6月頃）に、国立情報学研究所共同研究成果報告書（様式3）の提出が必要です。提出された報告内容は、本研究所のWebページ及び年報に掲載されるほか、広報誌等にも掲載することがあります。

成果報告書は、下記アドレス宛に電子データ（Wordファイル、またはLaTeXファイル）にてご提出下さい。（紙媒体の送付は不要です。）

e-mail: kyoudou@nii.ac.jp

15. 研究成果の発表

研究成果を研究所以外に発表する場合には、30日前までに本研究所の同意を得て、本研究所との共同研究によるものであることを明示して下さい。発表内容は、別添「共同研究

企画申請書」の記入要領「6. 申請者研究業績」と同様の形式で、kyoudou@nii.ac.jp まで提出して下さい。

1 6. 秘密保持義務

共同研究の実施に伴い生じた研究成果及び研究所から開示を受け又は知り得た情報については、既に自己が保有していた又は既に公知となった情報、開示を受け又は知得した後自己の責めによらず公知となった情報、本研究所から同意を得た場合を除き共同研究終了後2年間秘密を保持しなければなりません。

なお、より詳細な取り決めが必要な場合は、別途協議します。

1 7. その他

- 申請書に記載した一部に誤りがある場合、また、共同研究員としての協調性を欠く場合には、採択の決定後といえども本研究所の判断により、当該共同研究を中止または共同研究員の受入を中止することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 研究期間が複数年度にわたる場合には、「平成26年度国立情報学研究所公募型共同研究企画申請書」の「2.研究実施方法等」欄を年度ごとに明記下さい。ただし、「研究企画会合公募型」については複数年度にわたる計画を認めません。
- 研究企画会合公募型の会合実施場所である、「国立情報学研究所 軽井沢国際高等セミナーハウス」を紹介します。

他の共同研究に係る議論の実施場所としてもご利用下さい。

国際高等セミナーハウス

本研究所の初代所長である猪瀬博氏の寄附を基に、閑静な軽井沢の地に設立された、学際的で国際的な討論と思索の場です。定員46名のセミナー室と10名が宿泊できる部屋があります。(追加ベッドにより15名まで宿泊可能です。)

住所：長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢字長倉往還南原1052-471

詳細は、<http://www.nii.ac.jp/about/seminar-house/> をご覧下さい。

- その他、本共同研究の詳細については、企画課社会連携推進室連携支援チームにお問い合わせ下さい。申請書等の様式は、本研究所ホームページ <http://www.nii.ac.jp/research/collaboration/kyoudou> からダウンロードできますので、ご利用下さい。

問い合わせ先：

国立情報学研究所 総務部企画課 社会連携推進室 連携支援チーム

TEL : 03-4212-2170, 2175 e-mail : kyoudou@nii.ac.jp

戦略研究課題一覧

1. ITによる食と健康（新設）

「未病」を始め、食と健康に対する関心は増大する一方と言える。ITによる新たなソリューションを期待する。

2. 超巨大システムのためのアルゴリズム

従来に比べて桁違いに大規模な巨大データベースを利用したCPS（Cyber Physical System）の今後の進展を想定し、このシステムで利用可能な巨大データの処理を超高速・高効率に行なうアルゴリズムの理論、および、実装に関する研究開発。また、これらのアルゴリズムを用いたCPS構築に関する研究開発も含む。

3. 量から質への転換によるマルチメディアコンテンツ解析

大量な画像・映像・音響などのマルチメディア情報を、有効利用するためには、マルチメディア内容解析により事物や情景などの情報を効果的に抽出する必要がある。そのための、大規模なコーパスに基づくマルチメディア内容解析、大規模マルチメディアアーカイブに対する内容解析技術ならびにマイニング技術、これらに基づくマルチメディアキラーアプリケーション。

4. ソーシャル・シグナル・プロセッシング

人間のコミュニケーションにおいては、相手に対して、あるいは、グループにおける自己の存在を表すための、多様な形の態度や行動を発信している。これらをソーシャルシグナル(social signal)と呼ぶ。このソーシャルシグナルから非言語的あるいは行動的な特徴を検出する手法、さらに、これらの特徴から態度や行動の意図を推定する手法、および、ソーシャルシグナルを人間-機械間のコミュニケーションに応用するための研究開発。

5. アンビエントディペンダビリティ

センサ・アクチュエータ技術の発達により、物理世界と密に連携したアンビエントシステムを実現する基盤が整いつつある。このようなシステムは、不具合が生じた場合の社会的な影響が大きいため、従来のシステムと比べて、より高い信頼性が求められる。高信頼なアンビエントシステムを実現するための開発手法を研究。例えば、物理的影響も含めたソフトウェアシステムの構造・振る舞いのモデル化、検証手法、フレームワーク/ミドルウェア、品質評価手法など。

6. ビッグデータの安全・安心利用による価値創生

ビッグデータは今後のイノベーションや生産性向上のためのフロンティアと言われているが、その価値を高めるためには、信頼性や秘匿性を維持しつつデータ自体の流通が促進されることが必要である。そのためのデータの安全な流通の仕組み、プライバシーに関与する情報をデータ特性や利用目的によって適切に隠蔽する技術、多様な情報保護ポリシーに沿った複数データの分析・利用等に関する研究開発。

一般研究公募型研究事項一覧

情報学プリンシプル研究系(ブ): 23件
 アーキテクチャ科学研究系(ア): 13件
 コンテンツ科学研究系(コ): 33件
 学術認証推進室(認): 1件
 情報社会相関研究系(社): 9件
 の順に掲載しております。

番号	研究事項	研究概要	連絡先 e-mail ※ □を@に変えて 送信下さい。
		担当教員(所属)	
		担当教員名	
ブ1	高速推論技術に基づいて複雑な問題を解決する研究	各種の制約充足・最適化, システム検証・設計などの問題に対し, 高速な SAT/CP/ASP 技術により大規模問題や未解決問題の解法を試みる.	inoue□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		井上 克巳	
ブ2	推論による仮説発見および科学応用に関する研究	アブダクションや帰納論理プログラミングなどの仮説発見に関する基礎研究, および生物学や社会科学における知識発見への応用を行う.	inoue□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		井上 克巳	
ブ3	知識や信念の更新・統合に関する研究	時空間を関係性の観点から表現した定性的制約ネットワーク(QCN) や命題論理による知識表現において, 状態間または配置間の距離を定義し, 複数の知識ベースや QCN の更新や統合に関する理論を構築する.	inoue□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		井上 克巳	
ブ4	マルチエージェントシステムの最適設計に関する研究	複数のエージェントが局所的に通信し合う環境において, プライバシー・セキュリティ・コスト・利得等のトレードオフを考慮しながら, 多元の目的関数を同時に最適化するアルゴリズムを開発する.	inoue□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		井上 克巳	
ブ5	システムのダイナミクスとロバストネスに関する研究	セルオートマトンやブーリアンネットワークなどのダイナミックなシステムにおいて, 状態遷移に関する推論・学習などの技術を用いて, 擾乱に対して頑健なシステムの設計原理の確立に向けた研究を行う.	inoue□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		井上 克巳	
ブ6	プログラム理論	高信頼のソフトウェアの生産のために, プログラムの検証, 合成, 変換は不可欠であるが, いまだに理論的困難があり実現していない. プログラムの検証, 合成, 変換を行うための数学理論を構築しその性質を明らかにする理論的研究.	tatsuta□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		龍田 真	
ブ7	構成的論理	構成的論理は古典論理から排中律を除いた論理である. 構成的論理は, プログラム合成の数学理論を与え, 型理論と理論的共通性があり, また, 論理プログラミングの基礎を与える. 構成的論理の理論的性質を明らかにする理論的研究.	tatsuta□nii.ac.jp

		情報学プリンシプル研究系・教授	
		龍田 真	
プ8	量子情報工学の確立へ向けた多角的なアプローチ	量子情報研究は、学際的な研究領域で、コンピュータサイエンス、物理、数学など様々な分野を背景として研究が進められてきた。最近の量子制御の発達から、今後これまでの学際的な研究を統合した量子情報工学の基礎の確立が期待されている。多角的なアプローチによって、統合化の加速と量子情報理解の深化を目指す。	nemoto□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		根本 香絵	
プ9	不良設定問題に対する大規模数値計算法の開発と実問題応用	各種計測で得られた大規模データから目的情報を抽出・復元する問題は、不良設定となることが多い。このような設定の実問題に対して、効率的な解法の早期開発が望まれている。本共同研究は、大規模数値計算技術と不良設定実問題のマッチングをほかり、各問題に適した実用解法を開発する。	hayami□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		速水 謙	
プ10	レジリエント情報通信ネットワークの研究	災害に対して情報通信サービスを生かし続けるため、(1) アドホックネットワークや DTN (Delay-Tolerant Network) 技術により、ユーザのモバイルデバイスをホップバイホップでネットワーク接続するレジリエントアクセスネットワークと、(2) ネットワーク仮想化技術とサーバ仮想化技術を連携させたレジリエントバックボーンネットワークを研究する。	shigeki□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・教授	
		山田 茂樹	
プ11	Web データからの知識発見とその利用に関する研究	Web データなどを対象として、さまざまな情報を統合し、新たな知識を発見する技術に関する研究	ichise□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・准教授	
		市瀬 龍太郎	
プ12	様々な技術を統合した汎用人工知能の実現手法に関する研究	人工知能やその関連分野の要素技術を統合して、汎用人工知能を実現するため手法やその社会的影響に関する研究	ichise□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・准教授	
		市瀬 龍太郎	
プ13	現実社会への応用を見据えた幾何構造・グラフ構造における列挙アルゴリズムに関する研究	現実社会で問題となるビッグデータと、理論的なアルゴリズムの間には、実用上のギャップがある。このギャップを埋め、実用的なアルゴリズムの開発を目指す。そのために多彩な研究者を集めて議論型の研究集会等を行う。	uno□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・准教授	
		宇野 毅明	
プ14	マイクロフォンアレイに基づく信号処理の研究	複数のマイクロフォンによって空間的な音情報を取得することにより、音源定位、音源分離、雑音抑圧等、様々な音響情報処理を行う手法について研究する。非同期分散型やネットワークの利用など、マイクロフォンアレイ自体の新しい構成法についての検討や、それらを用いた新しい応用研究なども含む。	onono□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・准教授	
		小野 順貴	
プ15	高速ブラインド信号分離の応用研究	高速なブラインド信号分離アルゴリズムを用いた応用について研究する。音響信号に限らず、生体信号をはじめとした様々な種類の信号を用いた応用を含む。	onono□nii.ac.jp

		情報学プリンシプル研究系・准教授 小野 順貴	
プ16	補助関数法に基づく最適化の研究	補助関数法と呼ばれる枠組みを用いた最適化アルゴリズムについて研究する。個別の問題への適用の他、適用しやすい目的関数のタイプや補助関数設計の方法論などの一般論についても検討を行う。 情報学プリンシプル研究系・准教授 小野 順貴	onono□nii.ac.jp
プ17	社会的知能発生シミュレータ SIGVerseを用いた実践研究	NIIの稲邑を中心として開発されている社会的知能発生シミュレータSIGVerseは、複数の仮想的な知能ロボットと複数の実際の人間がインターネットを介して自然なインタラクションを可能とする機能を持っている。このシミュレータを用いて人間ロボット協調システム等の研究を、大人数のユーザを対象として実施する。 情報学プリンシプル研究系・准教授 稲邑 哲也	inamura□nii.ac.jp
プ18	自然言語と物理シミュレーションの統合による実世界の深い理解に関する研究	言葉による説明と図や写真などで示された実世界の情報を手がかりに、実世界での物理的な状況を理解し、将来に渡って何が起こるかを物理シミュレーション予測し、それらの情報を統合して知的な推論を行うシステムを研究する。 情報学プリンシプル研究系・准教授 稲邑 哲也	inamura□nii.ac.jp
プ19	形式言語理論とその応用	形式言語理論、特に文脈自由文法より強い記述力を持つ形式文法の理論と、計算言語学や生物配列解析などの諸分野への応用に関する研究 情報学プリンシプル研究系・准教授 金沢 誠	kanazawa□nii.ac.jp
プ20	帰納推論	計算論的学習理論(computational learning theory)、文法のアルゴリズム的学習(grammatical inference)、形式的認識論(formal epistemology)、帰納的ゲーム理論(inductive game theory)などに関わる帰納推論の理論の研究 情報学プリンシプル研究系・准教授 金沢 誠	kanazawa□nii.ac.jp
プ21	化学の情報と理論に関する研究	複雑で多様な化学的問題を化学情報と理論に基づき解明する方法論の開発と応用研究。化学情報学、化学計算・理論、数理化学、関連する情報学研究、実践的な化学分野(有機合成・反応化学、分子構造解析、生体機能関連化学、創薬化学、材料化学等)への応用研究を含む。 情報学プリンシプル研究系・准教授 佐藤 寛子	hsatoh□nii.ac.jp
プ22	Quantum information using atomic Bose-Einstein condensates	To analyze the feasibility, and further develop the theory of quantum information using atomic Bose-Einstein condensates (BECs). The primary experimental systems are atomic chip BECs, where spin coherent two component systems are coherently controlled. This research may lead to new devices that are contenders for quantum information devices such as quantum memories. 情報学プリンシプル研究系・助教 Tim Byrnes	tbyrnes□nii.ac.jp
プ23	Novel light	To develop new light sources based on semiconductor	

	sources using exciton-polaritons	exciton-polaritons. Exciton-polaritons possess a natural non-linearity and emit coherent light and have been shown to produce highly non-classical light. This will be used to develop a new type of laser that produces steady non-classical light, which may be used in quantum information applications.	tbyrnes□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・助教	
		Tim Byrnes	
ア1	アカデミックインターネットクラウドの実現に向けた基盤技術に関する研究	本研究では、大学等が運用する複数のクラウド環境を高速ネットワークで接続し、高度な学術サービスを提供するアカデミックインターネットクラウドを実現するため、その基盤となるシステムアーキテクチャ、ミドルウェア、運用技術に関する研究を実施する。	aida□nii.ac.jp
		アーキテクチャ科学研究系・教授	
		合田 憲人	
ア2	双方向変換の原理と実践に関する研究	双方向変換は、入力から出力を求める順変換と出力に加えた変更を入力に反映させる逆変換からなるもので、近年、データの同期、構造化文書の構成、ソフトウェア開発など、いろいろな場で注目されている。本研究は双方向変換の原理、記述言語、応用について研究する。	hu□nii.ac.jp
		アーキテクチャ科学研究系・教授	
		胡 振江	
ア3	系統的並列プログラミングに関する研究	Googleによって提案された MapReduce は大規模データ処理のための重要なフレームワークである。しかし、そのプログラミングは、これまでしばしばアドホックな方法で行われてきた。本共同研究では、MapReduce および類似のフレームワークを利用する並列プログラムを系統的に作成するための手法を設計し、実現することを目指す。	hu□nii.ac.jp
		アーキテクチャ科学研究系・教授	
		胡 振江	
ア4	形式手法教育の評価に関する研究	形式手法入門のカリキュラムならびに教育効果の評価法に関する研究	nkjm□nii.ac.jp
		アーキテクチャ科学研究系・教授	
		中島 震	
ア5	組込みシステムの高信頼化手法に関する研究	制御対象を含む外界と制御ソフトウェアの双方が複雑に絡み合うシステムを対象としたモデリングおよび形式検証に関する研究	nkjm□nii.ac.jp
		アーキテクチャ科学研究系・教授	
		中島 震	
ア6	ソシオテクノからみたソフトウェアに関する研究	「2つの文化(スノー)」、「当たり前の事故(ペロー)」、「過剰結合(ダビドウ)」等をふまえ、社会との関わりでソフトウェアシステムを評価する研究	nkjm□nii.ac.jp
		アーキテクチャ科学研究系・教授	
		中島 震	
ア7	形式手法の実用化に関する研究	形式手法と既存開発手法(テストング等)を組み合わせたソフトウェア高信頼化技術に関する研究	nkjm□nii.ac.jp
		アーキテクチャ科学研究系・教授	
		中島 震	
ア8	統計手法と自動検証の統合に関する研究	挙動が確定的でなく確率過程と見做せるソフトウェアシステムの自動検証法に関する研究	nkjm□nii.ac.jp
		アーキテクチャ科学研究系・教授	
		中島 震	

ア9	拠点間マイグレーションを実現する広域分散クラウド技術の研究	拠点間マイグレーションを実現する広域分散クラウド技術の方式検討および SINET4 等を利用した実証検証	abe□nii.ac.jp
		アーキテクチャ科学研究系・准教授	
		阿部 俊二	
ア10	グリーン・イノベーションのための革新的システムインターコネクタに関する研究	種々のメニーコアIT 機器の通信機構に関する省電力、ディペンダビリティなどの革新的な研究	koibuchi□nii.ac.jp
		アーキテクチャ科学研究系・准教授	
		鯉淵 道紘	
ア11	高度な情報処理を行うプログラマブル・ルータとスイッチに関する研究	インターネットを構成するルータ、スイッチにおいて、高度な情報処理を行うアプリケーションの提案および実装を行う革新的な研究	koibuchi□nii.ac.jp
		アーキテクチャ科学研究系・准教授	
		鯉淵 道紘	
ア12	モデル駆動工学のためのグラフ変換の相互運用性に関する研究	モデル駆動工学への応用を念頭にいたグラフ変換における、モデル要素の参照間の順序の扱い等の問題を相互運用性の切口で捉え、扱うグラフの表現力の向上、変換の性能や能力の向上等を通じた明快で強力な枠組に関する研究を行う。	hidaka□nii.ac.jp
		アーキテクチャ科学研究系・助教	
		日高 宗一郎	
ア13	セキュリティとプライバシーを両立するシステム構築技術に関する研究	セキュリティやプライバシーを両立する適切な要求を抽出・規定し、適切なサービスを提供するソフトウェアシステムを設計・実装し、一貫性を保つように運用する方法について研究する。さらに要求や環境の変化への対応する技術についても研究を行う。	nobukazu□nii.ac.jp
		アーキテクチャ科学研究系・准教授	
		吉岡 信和	
コ1	テキストメディアを介したコミュニケーションに関する研究	テキスト・インタフェースを介した人間の読み方や書き方のモデル化、文字情報を介したオンライン・コミュニケーション分析などに関する研究を行う。	akiko□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・教授	
		相澤 彰子	
コ2	テキストの分析と利用に関する研究	専門的な用語の抽出や同定、辞書資源の自動構築、文書内容の理解支援などに関する研究を行う。	akiko□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・教授	
		相澤 彰子	
コ3	情報抽出とエンティティ同定アルゴリズムに関する研究	大量のテキスト情報の中から機械学習の手法により情報エンティティを抽出し、また同定する手法の研究を行う。NII の持つ書誌情報等に適用し実用化することを前提としている。	adachi□nii.ac.jp
		副所長、コンテンツ科学研究系・教授	
		安達 淳	
コ4	Web 情報アクセス技術に関する研究	Web情報活用に関して様々な角度からWebデータ資源を用いた研究を行う。利用者行動分析、情報検索・抽出、情報推薦、多視点化など、Web 情報アクセス技術に関する幅広い研究を募集する。	oyama□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・教授	
		大山 敬三	
コ5	日常生活環境における人間の行動計測技術の研究	日常生活環境において人間と調和する情報システムの実現を目指して、(1) 実世界環境に埋め込まれた視覚センサ群および人間が身につけた視覚センサからの情報によって、人間の意図や	sugimoto□nii.ac.jp

	究開発	行動の意味を計算機に理解させること、(2) その結果に基づいて人間との動的インタラクションを自発的に行うシステムを構築すること、を目的とする。	
		コンテンツ科学研究系・教授	
		杉本 晃宏	
コ6	大規模データによる3次元シーンの認識技術の開発	大規模データを扱うことを前提とし、カメラやレンジセンサなどで獲得されたデータから、シーンの3次元情報の復元、内容に基づくシーンの分割やデータの分類等を高速・安定に行う技術を開発することを目的とする。	sugimoto□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・教授	
		杉本 晃宏	
コ7	高信頼幾何操作アルゴリズムの開発	計算機内では3次元物体形状は整数値を用いて管理されていて、物体に対する幾何操作は整数値に対する演算によって実現され、その結果もまた整数値で管理されている。このことを前提とし、誤差が一切生じないことを保証する幾何計算アルゴリズムの開発を目指す。これにより、幾何操作を繰り返し適用しても、その物体の幾何学的な構造や性質を保持する幾何操作が実現される。	sugimoto□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・教授	
		杉本 晃宏	
コ8	大規模テキスト集合の潜在構造の抽出と活用に関する研究	潜在トピックなど文書の潜在構造を抽出するための文書生成モデルやその学習法、抽出された潜在情報を用いたテキスト分類・トラッキング・統合に関する研究を募集する。	takasu□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・教授	
		高須 淳宏	
コ9	データストリームの分析・管理・蓄積法に関する研究	各種センサーから得られるストリーム型データの特徴抽出、マイニングアルゴリズムやデータのストリームの集約・管理・蓄積法に関する研究を募集する。	takasu□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・教授	
		高須 淳宏	
コ10	学術ビッグデータの活用法に関する研究	学術論文等の大規模な学術テキストから情報抽出、各種学術エンティティに基づいた情報の統合および情報の推薦法に関する研究を募集する。	takasu□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・教授	
		高須 淳宏	
コ11	実世界でのテキスト獲得と情報提示に関する研究	街なかなどの実世界における、ユーザの行動ログの収集・解析と、それに基づくコンテキスト等の推定、および、それに応じた情報精選・情報提示の方法論に関する研究を募集する。特に、ユーザの情動・感情等の内的なコンテキストに着目した取り組みを歓迎する。	aihara□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・准教授	
		相原 健郎	
コ12	映像内のノイズレベル検出に関する研究	夜間に撮像された映像で発生するショットノイズや、低レベル映像信号を増幅する際に発生するガウスノイズや、映像を低ビットレートで符号化する際に発生する符号化ノイズなどの映像ノイズは画質に大きく影響する。デジタル映像では、どの程度のノイズが映像に重畳されているかを検出する適切なアルゴリズムが存在しなかった。本研究では、デジタル映像信号を対象としたノイズレベル検出手法の確立を目指す。	iechizen□nii.ac.jp

		コンテンツ科学研究系・准教授	
		越前 功	
コ13	情報ハイディングの統一評価手法に関する研究	情報ハイディング分野では多くの方式が提案されているが、評価手法が様々であるため、第三者からみてどの方式が良いのか判断がつかない状況にある。上記を鑑み本研究では、情報ハイディングに関する標準的な評価手法を構築し、第三者が、想定している用途に関する適切な方式を容易に選定できるスキームを検討するとともに、情報ハイディング方式の提案・評価を行う。	iechizen□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・准教授	
		越前 功	
コ14	ソーシャルメディアにおけるデータ・コンテンツの匿名性と利便性を両立するプライバシー保護技術の確立	ソーシャルメディアでは、テキスト情報だけでなく、画像、動画、音声といったマルチメディア情報におけるプライバシー侵害が新たな社会問題として顕在化しつつある。本研究では、マルチメディア情報の公開、利用においても、その利便性、メリットを損なうことなく効果的にプライバシー保護を実現する手法の確立を目指す。	iechizen□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・准教授	
		越前 功	
コ15	認識エンハンス技術の研究	データ提供者の協力を得られる前提で、顔認識や話者認識などの事物認識の精度を向上させる技術の研究を行なう。	iechizen□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・准教授	
		越前 功	
コ16	軽量の埋め込み処理を実現する情報ハイディングの研究	Cyber Physical System (CPS)の取り組みにより、サイバー空間とフィジカル空間を意識することなく情報を伝達できる情報ハイディングの重要性が高まっている。エンドユーザーの任意の(携帯)端末においても、カバーデータに対してリアルタイムに情報の埋め込みを実現する情報ハイディング技術の研究を行う。	iechizen□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・准教授	
		越前 功	
コ17	学術情報サービスにおけるオープンデータ技術の活用	NIIが運営するCiNiiやNACSIS-CATなどの学術情報サービスにおいて、論文・書籍データを対象とした情報の構造化、Linked Open Dataの活用などに関する研究開発を行う。また実用化を目指したシステム設計を行う。	i2k□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・准教授	
		大向 一輝	
コ18	学術情報サービスにおけるユーザーエクスペリエンス設計	NIIが運営するCiNiiやNACSIS-CATなどの学術情報サービスにおいて、ログデータの分析を通じて、学術コミュニケーションの可視化を行う。また、ユーザーエクスペリエンス向上のためのシステム設計を行う。	i2k□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・准教授	
		大向 一輝	
コ19	GeoNLPを活用した地名情報処理の研究	オープンプラットフォーム GeoNLPを中心とした地名情報処理の研究を展開する。地名解析精度向上のための自然言語処理や、地名オープン データを構築・統合するための Linked Open Data等の技術基盤の開発、地理情報システムも活用したアプリケーション展開などの研究を進める。	kitamoto□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・准教授	
		北本 朝展	
コ20	クライシス情報学	災害等のクライシスにおける有用な情報システムの技術的・理論	

	に関する研究	<p>的側面を追及し、情報抽出、情報要約、情報可視化、シミュレーションなどの分野で技術開発を推進する。また、メディアとしての観点から社会的な意義や長期アーカイビング等に関する研究を進めると同時に、実務面からの問題提起なども歓迎する。</p> <p>コンテンツ科学研究系・准教授</p> <p>北本 朝展</p>	kitamoto□nii.ac.jp
コ21	デジタル・ヒューマニティーズに関する研究	<p>人文学におけるデータのデジタル化と情報プラットフォームを基盤とした新しい研究スタイルの展開を目指し、地理情報・画像情報等の統合・検索や、メタデータ・Semantic Web・TEI等の高度化に関する研究を進める。</p> <p>コンテンツ科学研究系・准教授</p> <p>北本 朝展</p>	kitamoto□nii.ac.jp
コ22	地球環境データの社会利益分野への展開に関する研究	<p>巨大な地球環境データの取得・蓄積・解析などに基づく社会利益分野(気象・災害・気候変動・農業・生態系など)への展開について、情報学分野の新規性と該当研究分野の高度化とを融合した研究を進める。</p> <p>コンテンツ科学研究系・准教授</p> <p>北本 朝展</p>	kitamoto□nii.ac.jp
コ23	大規模画像データに基づく実世界モデルの獲得	<p>本プロジェクトは、様々な時刻、異なる場所から撮影された画像データに基づき、対象シーンの実世界モデルを自動構築する技術の開発を目的とする。</p> <p>コンテンツ科学研究系・准教授</p> <p>佐藤 いまり</p>	imarik□nii.ac.jp
コ24	蛍光に基づく状態解析	<p>本プロジェクトは、蛍光指紋と呼ばれる対象物の吸収光、発光分光特性を獲得し、対象物の内部状態や食品の産地の解析、特定の物質の含有量の検出を画像を通して行う事を目的とする。</p> <p>コンテンツ科学研究系・准教授</p> <p>佐藤 いまり</p>	imarik□nii.ac.jp
コ25	先進的多言語解析技術	<p>日本語、中国語、韓国語などの言語を対象とした高精度言語解析技術や、研究が進んでいない言語におけるリソースの開発、またその応用として機械翻訳技術の研究・開発を行う。</p> <p>コンテンツ科学研究系・准教授</p> <p>宮尾 佑介</p>	yusuke□nii.ac.jp
コ26	自然言語と非言語データの意味解析	<p>自然言語が表す意味と非言語データが持つ意味をどのように記述し利用すべきか、理論と技術の両面から研究を行う。照応・参照解析、含意関係認識といった言語解析技術に加え、言語データのグラウンディングなどの研究を行う。</p> <p>コンテンツ科学研究系・准教授</p> <p>宮尾 佑介</p>	yusuke□nii.ac.jp
コ27	リポジトリの多角的利用に向けた研究	<p>国内にあるリポジトリの多くは文献情報を収容するシステムにとどまっているが、海外ではマルチメディアコンテンツやデータなど、多角的な利用を想定した学術情報共有基盤へと展開している。本課題では、論文以外のコンテンツを収容するリポジトリシステム構築に必要な技術開発、または、それを実サービスへの応用の際の問題解決型の研究を実施する。</p> <p>コンテンツ科学研究系・准教授</p> <p>山地 一禎</p>	yamaji□nii.ac.jp
コ28	機関リポジトリの価値向上に向け	<p>図書館を中心として国内でも多くの機関リポジトリが運用されているが、その利活用の状況を詳細に評価した例はほとんどない。</p>	

	た評価・技術開発に関する研究	本課題では、機関リポジトリへのアクセスログを活用しその価値について議論を展開する研究、または、そうした利用価値向上へと発展する技術開発に関する研究を実施する	yamaji□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・准教授	
		山地 一禎	
コ29	音声認識、話者認識システムの精度向上およびプライバシー保護のためのユーザ主導型声質変換	音声認識および話者認識の精度は日々向上し、様々なアプリに利用されている。本研究では、ユーザ自身が自身の声を変換出来るデバイスを開発し、この声質変換を通して、a) 騒音化等において個人認証および音声認識精度を向上させると同時に、b) 利用することを意図していない他の個人認証システムからは個人を識別されない様、声の話者性を変換し、必要時には声のプライバシーを保護することも可能にする技術について検討する。	jyamagis□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・准教授	
		山岸 順一	
コ30	多人数インタラクション・マルチモーダルインタラクションに関する研究	本研究事項では、多人数インタラクション・マルチモーダルインタラクション研究の方法論を取り上げる研究課題を募る。	bono□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・助教	
		坊農 真弓	
コ31	テクノロジーとインタラクションに関する研究	本研究事項では、社会がテクノロジーをいかに受け入れるかまたは受け入れないかについて、インタラクション研究の観点から議論し、異分野融合をはかる研究課題を募る。	bono□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・助教	
		坊農 真弓	
コ32	サービスエンカウンターとインタラクションに関する研究	本研究事項では、日本独自のサービス(ex. おもてなし)に着目し、その実態をインタラクション研究の観点から議論し、世界に発信する研究課題を募る。	bono□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・助教	
		坊農 真弓	
コ33	手話とインタラクションに関する研究	本研究事項では、手話言語と手話コミュニティをインタラクション研究の観点から議論し、新しい枠組みを提案する研究課題を募る。	bono□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・助教	
		坊農 真弓	
認1	認証連携技術とその活用および運用方法に関する研究開発	Webをはじめとする様々なネットワークサービスでは、利便性を向上させつつ、併せて安全性を向上させることが求められている。加えて、ネットワークサービスを提供する際のコスト削減も重要な課題である。これらの課題の解決に向けて、大学間認証連携フレームワークに基づき、将来の教育研究環境の向上に結びつく研究開発を行う。	motonori□nii.ac.jp
		学術認証推進室・教授	
		中村 素典	
社1	情報アクセス技術の評価とコミュニティ型研究基盤構築に関する研究	テキスト、または、非テキストメディア(画像、映像、音声など)、SocialMedia (Blog, SNS, コミュニティ型 QA, Twitter など)を対象とした検索、要約、質問応答、分類、マイニングなどの情報アクセス技術の研究と評価実験に必要な研究基盤 データの構築、評価手法、研究コミュニティの創成、システムの部品化と共有等のための研究基盤の構築に関する研究	kando□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・教授	
		神門 典子	

社2	探索型検索システムに関する研究	話的探索的な情報検索(Exploratory Search)について、利用者の探索行動の調査、利用者の問題解決過程の理解、探索過程のモデル化、それらに基づく対話的な探索型情報アクセスを支援するシステムやユーザインタフェースの設計・構築・評価に関する研究。	kando□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・教授	
		神門 典子	
社3	多言語情報に関する戦略的情報アクセスシステム	Twitter、オンラインニュース、ブログなどの多言語時系列情報のテキスト、音声、画像、ビデオ等を対象とした戦略的な情報検索・分析・要約・高度質問応答システムに関する研究。時系列性をもつ時事情報の分析や理解生成、セレンディビティ導出、多言語情報に対する言語横断アクセスの研究も含む	kando□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・教授	
		神門 典子	
社4	アノテーション付きテキストの検索に関する研究	品詞、固有名、意味関係ラベル、主観・客観、肯定・否定など多様なアノテーションが付与された文書集合を検索するための検索モデルの研究。このようなアノテーションを大規模なコーパスに対して付与する研究やアノテーション付きテキスト検索に資するファセット検索などの検索インタフェースの研究も対象とする	kando□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・教授	
		神門 典子	
社5	情報探索における利用者の意図・態度・適応プロセスの解明	情報の探索における利用者の多様な行動的・非言語的・言語的な特徴から、利用者の意図・態度・情動、探索環境に適応していくプロセスなどを解明する研究。探索は、情報検索システムに対するもののみならず、対人コミュニケーションによるものや社会的なものも対象とする。	kando□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・教授	
		神門 典子	
社6	健康情報の探索を支援する対話的情報探索技術	健康情報の探索は、専門用語や検索になれているかどうかだけではなく、健康情報に関わる背景知識、抱えている問題や携わっているタスク、結果の理解や信頼性評価、情報源に関わる知識など、さまざまな種類の知識や技術が複合的にかかわる複雑なプロセスである。ユーザを支援するには、ユーザの知識や携わっているタスク、検索の意図、抱えている問題を推定し、ユーザの知識や状況に応じて、適切な支援を行う必要がある。本研究では、このような複雑な探索過程を、個々のユーザの状況に応じて支援する技術について研究を進めたい。とくに、探索過程そのものから得られる情報を用いて、ユーザの背景知識や検索意図、ユーザの置かれている情報、問題のむずかしさなどを推定し、随時、適切な支援や導きをユーザにオンラインで提案するための方策に特に関心があるが、これに限らない。また、複雑なタスクの構造を持つドメインで、その知見を健康情報の探索にも活用できる可能性があるのであれば、健康情報以外のドメインの研究の提案も検討する。	kando□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・教授	
		神門 典子	
社7	実世界質問応答	従来、質問応答技術は、オープンドメインで、1文の比較的規格化された自然言語で記述された質問を対象としてきた。しかしながら、実世界では、複数文からなる質問、質問意図を捉えにくい	

		複雑な質問文、文脈理解、推量、ドメイン知識などが必要となる場合が少なくない。本研究事項では、入試、カスタマーセンタ、FAQ、CQA などの実世界の質問応答を対象とする。希望する共同研究者には、UIMA 化した 2 種類の質問応答システムをベースラインシステムとして提供する用意がある。	kando□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・教授	
		神門 典子	
社8	ソーシャルメディアを用いた外交問題に関する世論形成過程の研究	外交問題、特に日韓・日中関係に関する世論形成過程についての実証研究を行う。ツイッターデータと NLP を用いた定量的な観察研究と、フェイスブックを用いたランダム化比較実験を行う。国内の韓国人・中国人研究者と連携し、各国における外交問題のフレームの相違と共通点を明らかにすることを視野に入れる。	k-tetsu□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・准教授	
		小林 哲郎	
社9	メディアバイアスの定量的評価に関する情報学と社会科学の融合研究	日本のマスメディアにおける報道バイアスの有無、およびその程度について定量的評価を行う。NLP 等の情報学的アプローチと実験・サーベイを主とする社会科学的手法を融合した独創的アプローチを取る。メディアバイアスの定量的評価に関しては国内初の研究となる。	k-tetsu□nii.ac.jp
		情報社会相関研究系・准教授	
		小林 哲郎	

研究企画会合型研究事項一覧

番号	研究事項	研究概要	連絡先 e-mail ※ □を@に変えて 送信下さい。
		担当教員(所属)	
		担当教員名	
会1	社会的知能の構成論的研究	人間や動物の知能の原理の解明や、知能ロボットのアーキテクチャの設計には、環境と主体の身体的相互作用と、個体間の社会的相互作用の双方の関係性を考慮しつつ、学際的なアプローチでの構成論的研究が必要となる。知能原理の仮説を検討し、構成論的にそれをロボットやシミュレーション上に実装しながら仮説を検証するアプローチでの研究を行う。	inamura□nii.ac.jp
		情報学プリンシプル研究系・准教授	
		稲邑 哲也	
会2	インタークラウド研究コミュニティ形成	インタークラウド技術を実現する研究コミュニティの形成/活性化をするための研究ワークショップ等の開催を行う。	abe□nii.ac.jp
		アーキテクチャ科学研究系・准教授	
		阿部 俊二	
会3	人間の視覚的注意の分析と応用	人間と調和する情報システムを実現することを目的とし、時々刻々変化する人間の注意をどのように推定し、それをどのように活かすかについての議論を深め新たな展開を見出すことを目指す。	sugimoto□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・教授	
		杉本 晃宏	
会4	多人数インタラクション・マルチモーダルインタラクションに関する研究	本研究事項では、多人数インタラクション・マルチモーダルインタラクション研究の方法論を取り上げる研究課題を募る。	bono□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・助教	
		坊農 真弓	
会5	テクノロジーとインタラクションに関する研究	本研究事項では、社会がテクノロジーをいかに受け入れるかまたは受け入れないかについて、インタラクション研究の観点から議論し、異分野融合をはかる研究課題を募る。	bono□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・助教	
		坊農 真弓	
会6	サービスエンカウンターとインタラクションに関する研究	本研究事項では、日本独自のサービス(ex. おもてなし)に着目し、その実態をインタラクション研究の観点から議論し、世界に発信する研究課題を募る。	bono□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・助教	
		坊農 真弓	
会7	手話とインタラクションに関する研究	本研究事項では、手話言語と手話コミュニティをインタラクション研究の観点から議論し、新しい枠組みを提案する研究課題を募る。	bono□nii.ac.jp
		コンテンツ科学研究系・助教	
		坊農 真弓	
会8	大学のニーズにマッチした新しい認証連携基盤に関する技術交換	学認に参加校も順調に増加するとともに、各大学の統合認証基盤は、常套的に利用される必須のインフラとなってきた。その際のセキュリティの確保や利便性の向上について継続的に検討することは、次世代の大学 ICT 基盤を構築していく上での重要な要素となる。本課題では、大学のニーズを明確化し、学認の次の展開を担う新しい技術開発の検討を実施する。	motonori□nii.ac.jp
		学術認証推進室・教授	
		中村 素典	

(様式1 記入要領)

「共同研究企画申請書」の記入要領

1. 申請者

- (1) 所属機関等名称は、学部等、所属部局、役職名まで記入下さい。
- (2) 企業・大学等の職員も研究者として申請者及び共同研究者になることができます。
- (3) 大学院生(社会人学生は除く)は申請者になれませんが、共同研究者にはなれません。

2. 研究事項および研究テーマ

- (1) 申請する研究テーマが、新規であるか平成25年度からの継続であるかのいずれかを■で示して下さい。継続の場合は、平成25年度共同研究採択一覧(http://www.nii.ac.jp/kenkyou/files/b/1234/kyoudoukenkyu_ichiran/h25_ichiran.pdf)の研究課題番号を()内に記入下さい。
- (2) 公募型の区分を3つ(戦略研究公募型:「戦略」、一般研究公募型:「一般」、研究会合公募型:「会合」)のうちから選んで■で示して下さい。
- (3) 「戦略」を選択した場合は、「戦略研究課題一覧」(別紙1)から研究課題を選定した上で、その研究事項に関連した研究テーマを簡潔に(50字程度)記入下さい。共同研究を行いたい国立情報学研究所(以下「本研究所」)の教員がありましたら、併せて記入下さい。
- (4) 「一般」を選択した場合は、「一般研究事項一覧」(別紙2)から研究事項を選定し、研究事項番号と研究事項を記入下さい。その上で、その研究事項に関連した研究テーマを簡潔に(50字程度)記入下さい。適当な研究事項がない場合は、研究事項番号欄に「なし」、研究事項欄に共同研究を行いたい本研究所の教員名がいる場合は記入の上、研究テーマを簡潔に(50字程度)記入下さい。
- (5) 「会合」を選択した場合は、「研究会合事項一覧」(別紙3)から研究事項を選定し、研究事項番号と研究事項を記入下さい。その上で、その研究事項に関連した研究テーマを簡潔に(50字程度)記入下さい。適当な研究事項がない場合は、研究事項番号欄に「なし」、研究事項欄に共同研究を行いたい本研究所の教員名がいる場合は記入の上、研究テーマを簡潔に(50字程度)記入下さい。

3. 研究実施方法等

研究期間が複数年度にわたる場合は、年度ごとに明記下さい。(研究会合公募型は複数年度分の記入はできません)

- (1) 「研究の目的及び期待される効果」欄
研究の目的及び期待される効果について、具体的に記入下さい。
- (2) 「研究実施方法」欄
研究の実施方法について、具体的に記入下さい。

4. 研究内容等

- (1) 「研究の内容」欄
研究の内容について、具体的に記入下さい。
- (2) 「本件他の助成状況」欄
本件研究テーマに関連して、科研費等他への申請ないしは採択実施しているものが

あれば、その内容（助成機関、制度名、助成額、課題名等）を記入下さい。

5. 所属長の承諾

あらかじめ申請者の所属長(大学、大学院の場合、学長・学部長・研究科長等。)の承諾を得て、所属長役職・氏名を記入、押印下さい。

本研究所の教員が申請者になる場合は、所属長の承認を省略することができます。

6. 申請者研究業績（過去5年間程度）

- (1) 共同研究に関連する主な論文について、論文名、発表誌名、巻号及び発表年月、査読の有無、を新しいものから順に記入下さい。発表誌が電子ジャーナルの場合はDOI（デジタルオブジェクト識別子）もしくはURLを（機関リポジトリ等に掲載のものでも可）、冊子体の場合は掲載ページも記入下さい。**印刷物の送付は不要です。**
- (2) 共同研究に関連する主な学会等の発表について、発表タイトル、会議名、発表年月を記入下さい。プログラム等の発表情報がWebに掲載されている場合はURLを記入下さい。
- (3) 研究企画会合公募型に応募する者で、論文及び学会発表が無い者については、関連業務従事歴等について、記入下さい。

7. 必要経費

「備品費」「消耗品費」「旅費」「その他」に分けて記入下さい。

※謝金は「その他」に記入下さい。

※研究補助者等の雇用経費としては使用できません。

8. 共同研究者

- (1) 共同研究者欄には、本研究所の教員を含めて記入下さい。事前に本研究所の担当教員と打ち合わせ、連絡担当教員を決め、氏名欄左側に○印を付けて下さい。その場合、本研究所の教員は連絡担当教員として当該共同研究の指導・助言を行います。本研究所の教員が申請者になる場合は、本研究所の教員の記載は省略することができますが、公募型研究の申請全体について2件を上限とします。
- (2) 担当教員が不明な方は、企画課社会連携推進室連携支援チーム(TEL03-4212-2170、2107 e-mail:kyoudou@nii.ac.jp)にご相談下さい。
- (3) 本研究所以外の共同研究者については、各共同研究者の所属長が当該共同研究への参加を承知していることを確認した上で記入下さい。

受付番号	
整理番号	

平成 26 年度国立情報学研究所共同研究企画申請書

平成 年 月 日

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構
国立情報学研究所長 殿

[申請者]
所属機関等住所 〒

所属機関等名称

職名
電話

フリガナ
氏名

印

(e-mail :)

「平成 26 年度国立情報学研究所共同研究募集要項」に記載された条件に従って、下記のとおり研究テーマを申請します。

1. 研究事項および研究テーマ

新規・継続 (H25 番号)	公募型 区分	研究課題・ 事項番号	研究課題・事項名 (「一般」区分は別紙 3、「研究企画会合」区分は別紙 4 参照) (該当する課題・事項名を記入下さい)
<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続 ()	<input type="checkbox"/> 戦略 <input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 会合		
研究テーマ			
(上記課題・事項をもとに申請者ご自身が設定された研究テーマを記入下さい。 課題・事項が無い場合で、希望教員がある場合は本欄に記入下さい。)			

2. 研究実施方法等

<p>研究の目的 及び 期待される効果</p>	
<p>研究実施方法</p>	

3. 研究内容等

<p>研究の内容 (詳細に記述のこと)</p>	
<p>本件他の 助成状況 (各機関内部の助成 も含みます)</p>	

4. 所属長の承諾

上記の貴研究所共同研究に申請することを承諾します。

申請者の所属長 役職
氏名

印

5. 申請者研究業績

通番	業 績

6. 必要経費

必要経費内訳（平成26年度）

区分	内容	数量	金額	備考
備品費				
消耗品費				
旅費				
その他				
合計				

注1) 申請額の上限は「戦略研究公募型 200 万円」「一般研究公募型 100 万円」「研究企画会合公募型 80 万円」です。

7. 共同研究者（本研究所の教員を含めて記入し、本研究所連絡担当教員に○印を付けて下さい。）

氏名（フリガナ）	所属機関・部局等・職名	連絡先
		TEL : e-mail :
		TEL : e-mail :
		TEL : e-mail :
		TEL : e-mail :
		TEL : e-mail :
		TEL : e-mail :
		TEL : e-mail :
	(以下、適宜行を追加下さい)	TEL : e-mail :

注1) 国立情報学研究所教員以外の各共同研究者について、当該共同研究に参加することを所属する長が承知していることを確認したうえで記入して下さい。

注2) 本研究所の共同研究者のうち、連絡担当教員は、当該共同研究の指導・助言を行います。

注3) 企業・大学等の職員、大学院生も共同研究者となりますので、記入下さい。

注4) 研究所からの連絡は、記載の連絡先 e-mail 宛にお送りいたします。

平成 2 5 年度研究成果報告書（平成 2 6 年度継続実施希望者用）

※平成 2 6 年度申請書を「継続」として提出するものは、申請書と併せて必ず提出すること。）

※A 4 1 ページ以内に納めること。年度末の成果報告書は別途、様式 3 を提出頂きます。

現在の研究進捗状況と特記すべき研究成果と今後の課題（自由記述）

平成 2 5 年度共同研究採択一覧研究課題番号【 】

現在の研究進捗率：約（ ）%

本申請時まで実施・作成したイベント・論文・発表・出願等（主なもの）

平成【25／26】年度国立情報学研究所公募型共同研究研究報告書

【戦略 一般 会合(いずれか■)】型平成25年度共同研究採択一覧研究課題番号【 】
記載欄及びページは、適宜増やして構いません。

I. 基本情報

(1) 研究代表者 (申請者)	
氏名	
所属機関名	
職名	
(2) NII 連絡教員 ((1) と異なる場合のみ記入)	
氏名	
所属 (研究系・センター)	
職名	
(3) 共同研究者 (企業社員, 自営業, 学生も含め, 全員について記入。共同研究員追加申請書未提出の者であっても, 該当者があれば記入すること。) ※人数分適宜追加	
氏名	
所属 (部署等まで記入)	
職名	

II. 研究成果概要

平成25年度国立情報学研究所年報をはじめとして, 各種広報物や研究内容の問合せ時に使用するので, 一般の方でも分かる平易な文章で記入すること。(300~500字程度)

--

Ⅲ. 研究成果詳細

図表等の挿入も可。PowerPoint 等によるスライドの添付も可とするが、スライドのみではなく、本文も必ず記載すること。(記入欄は適宜追加し、添付したスライドのファイル名はⅢの資料であることが分かるように記載すること。) ※適宜ページを追加すること。

IV. 発表成果（複数ある場合は適宜表を増やすこと）

（１）論文発表（会議予稿集・報告書を含む）

枝番		査読の有無	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
論文タイトル			
著者, 共著者名			
掲載雑誌名			
巻号数及び掲載ページ（電子ジャーナルにおいては DOI もしくは URL を記載）			
機関リポジトリ掲載の有無	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 （有の場合は下行も記入）		
機関リポジトリの DOI もしくは URL			

（２）会議発表

枝番		査読の有無	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
実発表者名			
共同発表者名			
発表タイトル			
発表会議名			
会議主催者名			
会議開催日			
会議開催場所 （州等・国名まで）			
関連 URL 及び発表スライド等の Web 掲載の有無	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 （有の場合は下行も記入）		
上記 DOI もしくは URL			

V. 共同研究者との連携状況

(1) 研究打合せや研究会等の実施状況, 実施場所, 参加者, 期日等
 (記入方法は任意。別途実施後に作成した報告書等の添付, または URL や DOI 等を記入による代用も可。)

--

(2) 共同研究者が代表を務める研究及び研究会等への参加状況
 (記入方法は任意。別途実施後に作成した報告書等の添付, または URL や DOI 等を記入による代用も可。)

--

VI. 産業財産権(特許等), 実証実験の実施歴, イベントの開催等

(1) 産業財産権(特許等)(複数ある場合は適宜表を増やすこと)

出願・取得の別	出願・取得 (いずれかに○)
発明者	
権利者	
種類	
番号	
出願・取得年月日	
国内外の別 (国外の場合は国名)	

(2) 実証実験の実施歴, イベントの開催等(複数ある場合は適宜表を増やすこと)

実施年月日	
題名	
実施内容及び結果等	
実施場所	

VI. 今後の展望(共同研究の継続可否に関わらず記載)

--

X. 上記項目に当てはまらない活動内容について

--